



第 377 号

令和4年1月20日発行

- 巻頭言
- 全日中大会報告
- 論文
- さりながら
- 後期情報
- 事務局日誌



「旧幕軍上陸の地より駒ヶ岳を望む」森町立森中学校 石川宏司



職人のような教師になりたい

北海道中学校長会 副会長 水野秀哲

標題は「将来どんな教師になりたいですか」と若手教師に訊いたときの答え。妙に的を射た回答であるように思えて絶賛した。

ある意味、教師も「職人」であると思う。授業を創る職人として、専門職たる技量を高め、誇りをもってほしいと常々思う。教師である以上、生徒を育てる目的において不変であってほしい。

「自分の技術を探求し、自信をもち、金銭や時間的制約のために意志を曲げたり妥協したりすることを嫌い、納得のいく仕事だけをする傾向」、「いったん引き受けた仕事は利益を度外視してでも技術を尽くして仕上げる傾向」は「職人氣質（かたぎ）」と言われる。教師も似ているところがある。けれども、その保守的なところや便利さに飛びつきのを潔しとしないところは、ときに新しいもの、便利なものを取り入れるのに消極的である。

企業にはナレッジマネジメントという手法があり、ここでは「暗黙知」と「形式知」が対をなして表れる。言葉や文字で万人に普遍的に伝えることができるのが「形式知」で、経験や感覚など伝えるのが難しいのが「暗黙知」。職人の世界では「暗黙知」が支配的である。昨今企業はその「暗黙知」を誰でもが活用できるように「形

式知」にしようと取り組んでいるのだそうだ。

学校も「暗黙知」で仕事をしている教師が多いのではないだろうか。だから、学習指導要領をはじめ、示される指針（＝「形式知」）になかなか即時対応できない。おそらくは自分たちの「暗黙知」になるまで、本当の意味で定着はしない。逆に、広く一般化できる「形式知」は間違いがなく、便利そうだが、方法や手段のみが強調され、「それさえやっていたら間違いない」かのような錯覚が心配である。

最新の教育機器は、得意不得意、好むと好まざるに関わらず、使い手に「変わる」ことを求める。職人氣質に固執していると時流に乗り遅れる。それは即生徒にとっての不利益につながる。けれども、職人としての熟は見失ってほしくないし、基本はそこにある。将来「タブレットがなければ授業できない」先生が現れては困る。これからは今以上に、矜持を捨てるのではなく、新しいものを吸収し更に高みをめざす柔軟な感覚が必要なのだろう。

教師をリードする我々管理職もまた、変化を恐れぬ柔軟な発想や形式知を暗黙知として定着させる必要があると強く考えさせられる。



第72回全日本中学校長会研究協議会 静岡大会

第72回全日本中学校長会研究協議会静岡大会は「新たな時代を切り拓き、よりよい社会を形成していく日本人を育てる中学校教育」を研究大会主題とし、全国各地から1,100人を超える会員が参加し、アクティビティ浜松コンgresセンターを主会場に、初の試みとなるオンラインにより開催された。

3日間の日程と主な内容について報告する。

【第1日 10月20日(休)】

- 11:30～13:50 全日中常任理事会
- 14:00～17:00 全日中理事会
- 13:30～14:30 全体協議会運営委員会
- 15:00～17:00 分科会運営委員会

【第2日 10月21日(休)】

- 9:30～10:20 開会式
- 10:20～12:10 文部科学省説明 全体協議会
- 13:30～16:30 分科会

【第3日 10月22日(金)】

- 9:20～9:50 アトラクション
- 9:50～10:10 全体会
- 10:15～12:15 記念講演 閉会式

◆文部科学省説明

「当面する初等中等教育上の諸課題」



文部科学省大臣官房学習基盤審議官
茂里 毅 氏

以下の(1)～(6)について、資料に基づき重点的な説明がなされ、(7)(8)については資料の提供のみであった。(提供資料は省略)

(1)学校における新型コロナウイルス感染症対策について

これまで発出した通知等に基づき、引き続き家庭の協力を得ながら、学校内外で自ら感染症対策を意識することができるよう学校において指導することが重要である。

やむを得ず学校に登校できない場合などには、指導計画等を踏まえた教師による学習指導と学習状況の把握を行い、指導要録上は「欠席日数」として記録せず、またオンラインを

活用した学習の指導を実施したと校長が認める場合、「オンライン授業を活用した特例の授業」として指導要録に記録することに留意されたい。学校の感染症対策等支援について、感染症対策等の学校教育活動継続支援事業では1校当たりの上限額を引き上げるなど、引き続き必要な支援を実施していく。

令和4年度からPHR(Personal Health Record)を本格的に実施していく。これは個人の健康診断結果や服薬履歴等の健康等情報を、電子記録として、本人や家族が正確に把握するための仕組みで、学校健診も電子化し、マイナポータルを通じて他の健診情報と一覧性をもって提供できるよう文科省として取組を進めていく。

日本学校保健会が運用する「学校等欠席者・感染症情報システム」は、感染症で欠席する児童生徒等の発生状況をリアルタイムで把握し、情報共有できる仕組みであり、新型コロナウイルス感染症に対応するための改修も実施済である。費用負担もないことから各校における活用を検討していただきたい。

(2)小学校における35人学級の計画的な整備と高学年の教科担任制の推進について

誰一人取り残すことのないポストコロナ時代の新たな学びの実現に向け、教科指導の専門性をもった教師による小学校高学年における教科担任制の推進や、小学校における35人学級の計画的な整備、中学校における生徒指導や支援体制の強化等を図り、義務教育9年間を見通した指導体制による新しい時代にふさわしい質の高い教育の実現を図る。併せて、学校における働き方改革、複雑化・困難化する教育課題へ対応するため、教職員定数2,475人の改善を要求するとともに、制度改正に伴う既定の改善について令和4年度要求・要望額1兆5,147億円を計上している。

(3)学校における働き方改革について

学校や教育委員会からの国への要望を踏まえ、「教職員定数の改善」「教科担任制の推進」「支援スタッフの配置支援」「部活動の見直し」「教員免許更新制の検証」等の各取組を推進している。教員業務支援員(スクール・サポート・

スタッフ)の配置について、令和4年度、人数は+14,700人、要求額は+64億円の103億円を計上している。

「全国の学校における働き方改革事例集」を公開している。前半はどの学校でも実現できそうな取組を、後半はICT環境を活用した校務効率化を紹介している。是非、参考にしていきたい。学校の働き方改革を踏まえた部活動改革については、休日に教師が部活動の指導に携わる必要がない環境の構築と、休日における地域のスポーツ・文化活動を実施できる環境を整備することを改革の方向性とし、具体的な取組を実施している。運動部活動の地域移行は、検討会議を立ち上げ、「地域における受け皿の整備方策」「指導者の質及び量の確保方策」「運動施設の確保方策」「大会の在り方」「費用負担の在り方」等の検討事項について今後1年～1年半程度議論した後、とりまとめを行う予定である。

(4)GIGAスクール構想の推進について

GIGAスクール構想に関する各種調査では、小学校等の96.1%、中学校等の96.5%が、「全学年」または「一部の学年」で端末の利活用が開始されている。一方で、校内通信ネットワーク環境や学校の学習指導での活用、教員のICT活用指導力、持ち帰り関連などが主な課題として挙げられた。令和3年度から本格的に1人1台端末環境での実践を行う自治体が96%であることから、「GIGA StuDX推進チーム」による支援活動を本格稼働させるとともに「StuDX Style」により情報発信・共有を随時行っていく。この取組は最初からパーフェクトということではなく、試行錯誤が大切であると考えている。

GIGAスクール構想は環境整備から利活用促進整備の段階に移行している。新規で令和4年度要求・要望額64億円を計上し、GIGAスクール運営支援センター整備事業を進めている。GIGAスクール構想を通じて、学習環境を整備し、学校教育の質を高めていくには、学習者用デジタル教科書の活用を一層推進する必要があると考えている。次の小学校用教科書の改訂時期である令和6年度を、デジタル教科書を本格的に導入する最初の契機として捉え、着実な取組を進めていく。

(5)いじめ・不登校・自殺・児童虐待対応等について

10月13日に「令和2年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」の結果を公表した。新型コロナウイルス感染症により、学校や家庭における生活環境が大きく変化し、その影響が子供たちの行動にも及んでいる。この結果を踏まえ、どんな施策が必要なのか、文部科学省としても検討を進めていく。

いじめについて、学校いじめ防止基本方針に基づきいじめ防止対策のための組織を活用した組織的な対応がとられているか、今一度点検の重要性を認識し、取組を進めていただきたい。

令和2年度における児童生徒の自殺者数は、前年度に比べ増加している。令和3年1月～7月においても例年同時期よりも多い。児童生徒の自殺予防に関する調査研究協力者会議において、SOSの出し方に関する教育を含む自殺予防教育の充実や課題の早期発見・対応等へ向けたICT活用、関係機関等の連携体制の構築の重要性が示された。冬休み明けの自殺が増加しないような取組を、引き続き関係機関と連携しながら各校で進めてほしい。

不登校について、「義務教育の段階における普通教育に相当する教育の機会の確保等に関する法律」の主旨を踏まえ対応していくことが重要である。「ヤングケアラーと思われる子供」の実態を正確に把握するために、厚生労働省と文部科学省と連携し、実態調査を行った。定義がまた曖昧なところ

があるので、結果の数字を全てヤングケアラーとすることはできないものの、支援を必要とする子供が一定数いることが明らかになった。関係省庁と連携した取組を進めていく。学校ではスクールソーシャルワーカーと連携した支援の充実に努めてほしい。

児童生徒への虐待について、千葉県野田市の事案を踏まえ、各種通知を発出してきた。令和2年度には「学校現場における虐待防止に関する研修教材」を公表している。活用していきたい。また、「24時間子供SOSダイヤル」の周知の徹底をお願いする。

スクールカウンセラー及びスクールソーシャルワーカーについて、令和4年度要求・要望額は+26億円の98億円を計上し、教育相談体制の充実に努めていく。またスクールロイヤーについて、現在その整備状況を調査しており、地方財政措置についても今年度の予算要望において拡充の要求を行っている。

生徒指導提要について、平成22年に作成されてから10年以上が経過した。近年のいじめの重大事態や暴力行為の発生件数、不登校児童生徒数、児童生徒の自殺者数が増加傾向であるなど課題の深刻化や個別事項を取り巻く状況が変化している今日状況を踏まえ、改訂作業を進めている。

(6)教師の資質能力の向上等について

教員免許更新制は発展的に解消していく。先生方の学びは極めて重要との認識の下、「『令和の日本型学校教育』を担う新たな教師の学びの姿の実現に向けて」の審議を重ねている。これらの中教審の議論を踏まえ、新たな制度の設計を進めていく。

令和3年6月4日に「教職員等による児童生徒性暴力等の防止等に関する法律」が公布された。施行期日を待つことなく、法の理念や責務、方針、措置を念頭に置いた取組を進めることが必要である。児童生徒等へ性暴力等を行った教員に厳正な対応を求めていく。

(7)新学習指導要領について

(8)「『令和の日本型教育』の構築を目指して」(中教審答申)について

◆全体協議会

■第1研究協議会 全日中提案

学校からの教育改革「次世代の学校教育の実現」

全日本中学校長会総務部長 平井 邦明

令和2年度に策定された「全日中新教育ビジョン」において示された「10の提言」の実現の柱となる「カリキュラム・マネジメント」について、その3側面の1つである「教育課程の実施状況を評価して、その改善を図っていく」ことに焦点を当て、「次世代の学校教育に実現」に係る提言が行われた。

(1)学校や教員に期待される役割の拡大

近年、学校や教員に期待される役割や内容が量的にも質的にも拡大し、教員の長時間労働につながっている実態が明らかになっている。各学校は「学校評価」を通して教育活動の成果と課題を確認し、様々な改善を図っているが、現状を考えると、校長自身が大胆に削減の方向性を示して実践するという積極的な姿勢が更に必要である。

(2)カリキュラム・マネジメントの実態と効果

①各種調査の結果より

「全日本中学校長会調査研究報告書」における「カリキュラム・マネジメントの充実」について、教育課程の実施にあたり順調に実施できていることは「評価してその改善を図っていく」であり、できていないことは「必要な人的又は物的な体制、及び時間を確保する」となっており、この傾向は3年間変わっていない。新型コロナウイルス感染症対応で教育予算も大幅な減となっている実態もある中、学校でも「できることはやる」という行動が大切となる。

「全国学力・学習状況調査 学校質問紙」からカリキュラム・マネジメントの実態を考察すると、全教職員が自校の教育課程の改善に携わり、社会に開かれた教育課程の実現を目指すこと、さらには学校の様々な業務の効率化を図ることで生み出した「時間的且つ精神的な余裕」が、生徒一人一人の教育的ニーズに応じた指導の充実につながり、「確かな学力」の育成に結び付くことが分かる。

②「学校評価」の視点より

「学校評価」が、その効果を発揮し「学校改善につながる」ためには、教職員に「自分事」という意識があるかどうかが重要となる。教職員の思いや願いを校長が確実に受け止めた上で「具体的な改善の方向性」を示し、教職員が「学校を変えることができる」という実感を得ることができるかどうかにかかっている。

(3)どのように変えるか

今の時代に合った形で持続的な学校教育を実現するため、例えば、次のような取組が考えられる。

①各教育活動に対する教職員の意識の把握

②改善の方向性の提示

③改善意識の日常化の推進

(4)おわりに

全国の学校が「全日中新教育ビジョン」を基に学校改善に果敢に取り組み、各地の取組を成果として共有できれば、それは全ての校長の決断の後押しになる。全日本中学校長会という組織を通して全国の学校がつながり、「次世代の学校教育の実現」に向けた取組が前進することを願う。

■第2研究協議題 東北地区提案

震災の教訓を伝える防災学習

宮城県気仙沼市立鹿折中学校長 菅原 定志

未曾有の大災害、東日本大震災から10年が経過し、その直後から積極的に取り入れた防災学習が風化してきている。中学生が震災の教訓を次世代に伝えていく活動に地域と協働して取り組み、地域防災力を向上させる実践が発表された。

(1)新たな防災学習の構築と校長のかかわり

学校の現状や生徒の実態を踏まえ、以下の点で見直しを図り、持続可能な防災学習を構築した。

①教職員が防災教育を学ぶ場や方法の構築

多面的・多角的な見方・考え方や専門知識の提供を受けるために、大学教員を防災学習コーディネーターに招聘した。

②防災学習で生徒に身に付けさせたい力の明確化

全国学力・学習状況調査の生徒質問紙や学校生活から浮かび上がる課題を基に、コミュニケーション能力や表現力、挑戦意欲を、防災学習を通して高めている。

③体験的な学習に更に探究的な学習を加えた防災学習を計画する。

震災の避難行動や避難体験について、防災学習アドバイザーの助言の下、地域住民へのアンケートや聞き取り調査を行

い、その結果を考察し、紙芝居や劇にまとめたり、ポスターセッション形式で発表させたりした。

④防災学習を通して震災を学び、伝承する活動へとつなげていく。

地域の防災施設で中学生「語り部ガイド」として、また小学校の防災学習での学習成果の伝承等、発表の機会を設定している。

また、地域を巻き込むだけに次の点に配慮した。

- ・連携の在り方を地域とともに考え共有する。
- ・地域と学校がwin-winになるような連携にする。

(2)成果と課題

①成果

- ・大学教員を招聘したことにより、最新の知見を知ることができたことに加え、探究的な学習の進め方や疑問点を対面やメール等で質問する体制づくりができた。
- ・発表に際し「自分の言葉で話す」ことに挑戦したことで、コミュニケーション能力や表現力、また成功体験を通して自己有用感が高まった。
- ・「中学生による語り部」「小学生への伝承」を通して、地域防災力が向上した。

②課題

復旧・復興した街並みが当たり前の風景とならないよう、防災学習を通して次世代に震災とその教訓を伝え続けていくことが今後の課題である。中学生が語り継ぐことで、次世代の子供たちも震災を学ぶ機会となり、大人の防災意識をも高め、風化を防いでいく。

◆分科会

8つの分科会に分かれ、それぞれの担当地区から研究の取組と成果・課題について提案があり、Zoomのブレイクアウトルームを利用し熱心な研究協議が行われた。

第1分科会：北海道地区

〈「カリキュラム・マネジメント」の推進〉

- ・義務教育学校の特徴を生かした小中一貫教育の推進を通して
北海道中標津町立計根別学園校長 村上 玄一郎
- ・資質能力の向上を推進するカリキュラム・マネジメントと校長の指導性

北海道網走市立第二中学校長 垣内 孝仁

義務教育学校が誕生した背景を踏まえ、計根別学園では「小学校だったら」とか、「中学校だったら」という戦後75年以上積み上げられた固定概念を振り払い、「小でもない、中でもない、新しい学校の創造」を学校経営のグランドデザインの中心に据え、学校教育目標と並行して、教職員全員に意識させている。そして、義務教育9年間を連続した教育課程として捉え、適切なカリキュラム・マネジメントにより具体的な取組内容の質の向上を目指している。具体的には、教育課程編成において①4・3・2の区切り、②日課表の工夫、③教科担任制の拡大、また児童・生徒への工夫として①児童・生徒会の融合と系統的発展、②縦割り班、③家庭学習担任制の取組を進めた。成果として、学力向上について大きな改善が図られた。加えて、その結果として不登校の減少やいじめ撲滅への意識向上などで

も、教師・保護者・地域が実感できる変化が見られた。

網走市校長会は、市の将来を担う子供たちに確かな学力を育むことをねらいとして「網走市学力向上推進委員会」（以下「AGK」）を発足させ、「オール網走の取組」「チーム学校の取組」「人材育成」を中心テーマに掲げ、各校長のリーダーシップによって教育実践が展開されている。特に「学力向上フォーラム in 網走」と称した実践研修講座を毎年開催し、多くの学校関係者、保護者、地域の方が参加する場となっている。また、オホーツク管内学力向上支援事業として、「オールオホーツクで学力向上を！」（以下「オールオホーツク」）の取組がある。「AGK」「オールオホーツク」を連携させた授業改善や課題解決の取組を進め、マネジメントサイクルを確立することで生徒の資質・能力の向上につなげている。各校の成果を共有し、更に教職員の学びの環境を構築していく。

尚、村上、垣内、両氏の提案の詳細については会誌「全道中」No.91号（令和4年3月1日発行予定）に掲載する予定である。

また、他の分科会の研究協議題と概要は次のとおりである。

第2分科会：近畿地区

〈「主体的・対話的で深い学び」の実現〉

「読み解く力」の向上を目指した校内研究とOJTの実践による事例、授業力向上プロジェクト「聴いて・考えて・つながる授業」実践の事例が発表された。

第3分科会：九州地区

〈よりよく生きようとする意思や能力を育む道徳教育の充実〉

共によりよく生きようとする生徒の心を育む教育活動の創造を目指した「平和に関する資質」の伸長を図る取組を通して道徳性を養う実践の事例、「考え、議論する」道徳科の授業づくりと自己理解・他者理解を深める教育活動の実践の事例が発表された。

第4分科会：四国地区

〈健康で安全な生活と豊かなスポーツライフを実現するための教育の充実〉

生徒の主体性を育み、地域とつながる防災教育の推進の実践の事例、養護教諭部会と校長会が効果的につながり「健康教育」を拡げ定着させていくための実践の事例が発表された。

第5分科会：東海北陸地区

〈社会的・職業的自立に向けたキャリア教育と進路指導の充実〉

コロナ禍の中、各校の工夫をこらした子供たちへの学びの保障の実践の事例、キャリア教育の視点から日常の教育活動を捉え直し価値づける実践の事例が発表された。

第6分科会：東北地区

〈自他を敬愛し他者と協働しながら自己実現を図るための自己指導能力を育成する生徒指導の充実〉

みやぎの志教育の3視点「かかわる」「はたす」「もともとめる」を生かした教育活動の推進を通して、より良い人間関係を構築し自己実現を図るための自己指導力を高める学校経営の実践の事例、各学校の実態や特色を生かしながら共通の視点で課題解決を図る実践の事例が発表された。

第7分科会：関東甲信越地区

〈多様化した学校教育課題に対応できる教員の育成〉

S E E P（Subject, EBPM, EdTech, PBL）プログラムの実現に向けた研修を通じた実践の事例、地域と連携・分担し組

織的協働的に学校経営に携われる教員の育成を目指した実践の事例が発表された。

第8分科会：中国地区

〈学校と地域の連携・協働による「チーム学校」の実現〉

校長会のリーダーシップの下、教育委員会と協働しながら市内の全ての学校が共通歩調で学校における働き方改革を進めた事例、「外部人材の有効的活用」「異校種間・地域との連携・協働体制づくり」「教職員の働き方改革」の各視点から学校改善を図った事例が発表された。

◆アトラクション 「吹奏楽演奏」

浜松市中学校選抜吹奏楽団

浜松市吹奏楽団は、浜松市吹奏楽連盟中学校部会が主催し、平成元年度より30年以上にわたって活動している。夏の吹奏楽コンクール終了後よりオーディションを行い、浜松市の代表にふさわしい者が団員に選抜されている。これまでに石川県、愛知県、北海道、岐阜県に演奏旅行に出かけ、地元の中学生・高校生との交流を図ってきた。『音楽の都・浜松』にふさわしいハイレベルで迫力ある演奏が披露され、Zoomウェビナーチャットには多くの賛辞のメッセージが寄せられていた。

◆全大会 大会宣言決議

◆記念講演 演題「学習、成長—未来の脳を考える」

講師 東京大学薬学部教授 池谷 裕二 氏

池谷氏は神経生理学の専門家で、脳の健康や老化について研究している。脳の最先端の知見を社会に有意義に還元することに尽力しており、今講演も脳の機能や働きから学習や成長の過程を分析するものであった。「最初にたくさん失敗した方が学習効果は高い」「答えを出すのではなく、推測することに意味がある」「やる気は行動の原因ではなく結果」「できる人はやる気でなくシステムに従う。やる気はできない人が創作した言い逃れの方便」「学習に効率性や即効性を求めるのは間違っている。自分のスタイルにあった勉強法は幻想」「脳は入力より出力。思い出す訓練が大切。テストは計測手段ではなく創造的な思考力を発達させる学習ツール」「流暢性の幻想を生み出す学習方法に注意」などの説明に、Zoomウェビナーチャットには学びの仕組みを科学的に理解することができた多くの喜びの声書き込まれていた。

講演の最後は「知好楽（知っているだけの人は好んでやる人にはかなわない。好んでやっている人には楽しんでやっている人にはかなわない）」を引用し、学習も成長も「ワクワクしながら楽しく御機嫌に生きる」ことが何よりも効果があると締めくくった。

◆閉会式

宮澤大会長、宮崎実行委員長が、初の試みとなったオンラインによる今大会を振り返り、成果を確認するとともに、それを明日からの学校経営の確実な前進に結びつけていくことを呼びかけた。その後、次年度開催となる北海道札幌市より、その自然、歴史、産業を背景とする風土の紹介と大会準備の進捗状況等を含めた挨拶がなされ、全ての日程を終了した。

論 文

かかわりの中で自立しようとする子供の育成
～「決める」「伝える」学びの継続～

千歳市立北進中学校 佐藤 貢

1 はじめに

本校は、今年度開校50周年を迎える特別支援学級(知的、自閉・情緒)のみで構成される小中併置校である。校舎はJR千歳駅から間近の北栄地区の丘に位置し、千歳高校、北栄小学校と隣接していることから、子供たちの息づかいが色濃く感じられる地域である。千歳市における特別支援教育を一手に担っていた歴史があり、その後、インクルーシブ教育の浸透とともに地域の学校に特別支援学級が開設されていく中、市の「特別支援教育の推進に係る基本方針」においては、センター校として、実践の集積と小中併置の教育環境を生かした特色ある特別支援教育を行う学校と位置付けられている。

2 学校課題(年度の重点目標)

昨年度、重点目標を「自力解決しようとする子供の育成～『決める』『伝える』気持ちを大切に～」と設定し、教科等横断的に自己決定と意思表示の場面を創出し、検証改善を繰り返してきた。学校評価(自己評価)では、「決める」「伝える」教育実践に対して、全教員が肯定的な回答をした。

また、保護者アンケートでは、より大切な取組であると思う教育活動として、「意思決定の場面の設定と待つ指導」は「保護者と連携した個別の指導計画の取組」に次いで2番目という結果であり、子供たちのキャリア発達に欠かせないものであるという保護者の思いを感じ取ることができた。

一方で、私たち教師の中には自力解決を是とし、他者に依存することを嫌う傾向があることを認識しなければならない。校内教育支援委員会などの場面では、本校の子供たちに必要な力として自力解決の力とともに、「手伝ってください」「わかりません」「教えてください」「助けてくれますか」という援助希求的な態度とそれを支えるコミュニケーションの力であることがたびたび話題となった。依存できる人は必ず自立できる。依存できずに孤立する人は最後まで孤立する。助け、助けられしていく中で自己肯定感や自己有用感が育まれて、自立の意欲につながることを期待したい。そのような思いから、令和3年度の重点目標を「かかわりの中で自立しようとする子供の育成～『決める』『伝える』学びの継続～」とした。

3 具体的な取組

(1)方針の明確化

学校経営の基本方針は、「社会に開かれた教育課程」の実現の観点からも、分かりやすく実感をもとめる言葉による提示でなければならない。

本校の子供たちに強く求められる資質・能力は意思疎通の力であることから、その育成に向けたキーワードとして「決める」「伝える」「かかわり」の3語を選んだ。自己決定の場面を1時間に1回設定すると、1日で6回、1週間で30回程度の場面が作られるという思いで教育活動を展開している。

(2)教育活動を評価する視点の明示

体力向上プランにおいて、自立活動6領域の指導内容から学校としての目標を11設定した。その目標の中から子供の実態に応じて1つ以上、個別の指導計画の目標に設定し、保護者との教育相談の中で検証を行っている。また、重点目標と深く関係する項目である「友達と協力して運動することができる」という目標については、運動会の取組において「かかわり」を感じる子供たちの言動を全教職員で集積し、今後の指導に生かすこととした。このような取組を重ねていくことで、各教育活動を計画・実施・評価するとき、育成を図る資質・能力を踏まえる意識がより深まることを期待している。

(3)自己有用感を育む小中一貫教育

児童生徒会が主体となり「北進小中学校コロナ対策共同宣言」の取組を行った。道徳教育推進教師が核となり小中各学部と各分掌組織をつなぎ、差別や偏見をテーマとした道徳の授業から子供たちが主体の共同宣言発出までの教育活動を組み立てた。中学生が小学生に宣言の説明を行っていく中で、その表情に自己有用感の高まりを感じることができた。このような指導の事実を集積していくことで、「かかわりの中で自立しようとする」ことにつながる教育課程の検証改善サイクルを確実なものにしたい。

4 おわりに

本校の子供たちの成長は、学齢という横列で推し量るものではなく、個々の時間の経過という縦列で推し量る必要がある。学校経営にあたり、教育目標は一般化された語彙としておさえるのではなく、その言葉の深層にある個々の複雑で細やかな成長を感じ取る感性が必要であると感じている。

論文

学びと育ちをつなぐ学校づくり

～子どもたちの9年間をともに育む小中一貫教育の推進～

小樽市立西陵中学校 及 川年彦

1 はじめに

小樽市では、小中学校9年間での学力や体力の向上、「中1ギャップ」の解消等に向け、令和3年度より全ての中学校区を小中一貫教育推進地区と指定し、次の5つの視点に取り組んでいる。

(1)目標をつなぐ

- ・「小中一貫教育の目標」と「目指す子ども像」の設定
- ・「グランドデザイン」の作成

(2)子どもの学びをつなぐ

- ・9年間を通した教育課程の編成
- ・指導方法の工夫改善
- ・9年間を通した「学習規律」「家庭学習の手引き」等の作成

(3)子どもの心をつなぐ

- ・小中学校間で交流する機会の設定
- ・小学校から中学校への円滑な接続

(4)教職員の意識をつなぐ

- ・取組を推進する「部会」の設置
- ・小中学校間で共通理解を図る取組

(5)家庭・地域との絆をつなぐ

- ・学校評価項目の共通化
- ・小中合同の学校評議員会等の開催

2 具体的な取組

本校では「小中一貫教育の推進」を経営の重点とし、小樽市立稲穂小学校とともに、次のグランドデザインを掲げ、小中一貫教育を推進している。



グランドデザインを示すことで、小中一貫教育のねらいと必要性について小中教職員で共通理解を図ることができた。

(1)小中一貫部会交流の開催

校務分掌組織と連動させた「教務部会」「指導部会」「研究部会」を設置し、それぞれ具体的な内容について検討・実践・検証をしている。

教務部	指導部	研究部
<ul style="list-style-type: none"> ・9年間を通した教育課程の編成 ・乗り入れ授業 ・児童生徒・保護者アンケート結果の交流 	<ul style="list-style-type: none"> ・体力調査結果交流 ・校内外生活のきまりの接続 ・児童会・生徒会交流「いじめ防止サミット」の開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・学力調査結果交流 ・学習規律の接続 ・各教科の板書の交流 ・家庭学習手引き・計画表の交流

(2)中学校教員による教科担任制による専科授業の実施

昨年度より本校の理科教員が専科教員として、小学校6年生理科の授業を行っている。中学校では新1年生の詳しい情報が共有でき、新1年生にとっても、中学校に知っている先生がいることで、安心して中学校生活をスタートすることができるなど、小中学校間のスムーズな接続ができた。



(3)互いの公開研究会への参加

相互の公開研究会に小中学校教員が複数名参加した。互いの授業を見合い、小中それぞれの視点で協議することにより、



互いの授業改善に役立てることができた。

(4)稲穂小学校運営協議会への参加

稲穂小学校は、平成30年度に小樽市で初めてCSが導入された学校である。今年度初めて本校の学校評議員と地域連携担当教員が稲穂小学校運営協議会に参加し、小中一貫教育について意見交換が行われた。



3 終わりに

今年度は、コロナ禍のため「保護者に直接説明する機会」や「乗り入れ授業」など未実施の取組もあるが、小中互いの教職員が参画意識をもって上記の取組を進めることができた。今後は、子どもたちや保護者、地域の姿から具体的な検証を行い、『学びと育ちをつなぐ学校づくり』の充実に向けて、リーダーシップを発揮し、より一層努めていきたい。

感染症を通して見えてきた学校経営の見直し

旭川市立神居東中学校 岡崎良昭

1 はじめに

本校は昭和50年代に旭川市神居地区の人口増大に伴い、昭和57年に開校され、今年で40年を迎える。開校当時は通常学級12、全校生徒452人であったが、近年徐々に生徒数が減少し、今年度は通常学級7、特別支援学級3、全校生徒233人である。教職員数は21人、年齢構成は20代(約23%)、30代(約32%)、40代(約27%)、50代(約18%)と、バランスが取れている。

生徒の実態として、相対的に明るく素直で挨拶もよくでき、落ち着いた生活を送っている。学習に熱心に取り組む気風があり、授業に対しても意欲的で、ここ数年、全国学力・学習状況調査で全国平均を上回っている。また、部活動も盛んで、最近では、卓球部、陸上部、スキー部、男女バスケットボール部が全道大会、卓球部、陸上部、スキー部が全国大会に出場している。保護者や地域の支えの下、文武両道に励む活気ある学校である。

2 感染症を通して課題として見えてきたもの

令和元年度末から猛威を振るう新型コロナウイルス感染症により、「新しい学校の生活様式」が求められ、従前とは違い様々な制限がある中での教育活動となった。そんな中、本校では、教職員が一丸となって対応を検討し、教頭、主幹教諭を中心に、学年主任がリーダーシップを発揮し、まず生徒たちの安心・安全をしっかり守り、教育活動の推進に努めた。しかしこのことは、教職員の献身的な働きの上に成り立ち、超過勤務や今後の人事異動により、いつ崩れるか分からない危険性も含まれていた。また、学校運営協議会による学校活動の推進もストップする事態となった。

この状況への対応として、一致協力して教育活動を展開するチーム力を強化していく必要があった。教職員の協働体制や同僚性の充実、優先順位を明確にした業務の効率化等、大きな課題として捉え、学校経営方針に位置づけ、実践した。

3 持続可能な教育活動に向けた取組

生徒たちが元気に笑顔で楽しく学校生活を送るために、教職員が生徒たちと向き合う時間を確保し、生き生きと働きがいのある学校にしなければならない。その思いから働き方改革等を推進し、次のような実践を行った。①全教職員による朝の

挨拶運動、②生徒とともに朝読書、③朝の職員打合せ原則週1回、④朝の職員打合せ内容のiPad掲載、⑤隙間ない指導のため授業のスムーズな引継ぎ、⑥ICT活用による生徒指導情報、諸会議等資料のデータ化、⑦使いやすい・動きやすい環境づくりのための職員室・各教室の整理整頓、⑧部活動の複数指導体制、⑨連絡メール活用による保護者との連携、⑩運営委員会の活性化、⑪GIGAスクール構想実現に向かう校内研修、⑫各種儀式的行事・学校行事の簡略化、⑬勤務時間内での各学年・各分掌会議時間の確保、⑭時間割の工夫による運営委員会・生徒指導情報会議の実施、⑮家庭学習におけるeライブラリの活用、⑯通知表所見の内容や回数削減、⑰PTA組織・活動・会費の見直し、⑱教師側のできないことからできることへの発想の転換、⑲生徒側の「～しない」という否定的な目標から「～する」の肯定的な目標への意識改革、など。軌道に乗ってきたものもあれば、停滞しているものもある。「失敗を恐れず、やってみる。だめだったら、やり直し」の精神で、前向きに、チーム神居東が動いている。

取組の列挙となってしまったが、学校評価や生徒の変容の姿で検証し、学校改善に役立てていきたい。

4 おわりに

本校赴任前、小学校長として2年間勤務した。そこで感じたことは、各種行事に係る取組の多さであった。運動会や学習発表会、卒業式など大行事に向けて、子供たちの頑張りを披露するため、保護者に喜んでもらうため、子供が失敗しないようにするため等の意識を変えることであった。そこで「行事は日常の教育活動の成果であり、特別な取組を極力止める」という意識改革を訴えた。このことは現在の学校経営にも大いに役立っている。感染症を契機に、様々な活動を見直しながら、日常の教育活動を充実させ、その成果を行事で発揮し、自信につなげ、再び、日常の活動に還元していくサイクルが構築された。今年度の卒業式では、全校生徒・保護者が参加し、1年間の成長を確かめ合い、在校生が気持ちを込めて卒業生を送り出し、卒業生が堂々と巣立つ。このような行事となるよう、全力を尽くす。



厚岸町は「花と味覚と歴史のまち」と呼ばれ、漁業と酪農業が盛んな自然豊かな美しい街です。最近ではウイスキーの醸造所ができ、小さな話題を提供しています。私は昭和59年4月に新採用教員として現任校に着任し、3年間勤務しました。当時の厚岸町は、人口が15,000人を超え、学校数も小学校8校、中学校4校、小中併置校3校、高等学校2校と合計17校もありました。厚岸中学校も当時は、校歌の歌詞にある「集いよる 若人五百」とまではいきませんが、350人を数える生徒が在籍していました。また、あの頃には珍しいLL教室が設置されるなど、4階建ての白亜の殿堂として厚岸本町（湖南地区）の中央に堂々と君臨していました。

離任してから24年後の平成23年に教頭として着任したときは生徒数は110人余り。町内の学校数も、小学校4校、中学校3校、小中併置校2校、高等学校1校となっており、さらに翌年には小中併置校1校が廃校となりました。本校も、LL教室が廃止されてPC教室になり、2つあった理科室も1つになるなど、校舎内も変わっていました。それでも教え子が保護者として多数おり、参観日の際は、廊下で昔話をする楽しみ



日本ハムファイターズは3年連続で5位となり、シーズンを終えた。ファンクラブに入っている者はいろいろな意味で残念なシーズンだったに違いない。シーズン中はチームの雰囲気が悪い、若手が育たない、補強の失敗などが問われていた。学校に置き換えるならば、組織マネジメント、人材育成、人事異動の失敗に見立てることができる。

さて、若いころ参加した研修会で講師が、北欧の漁師町の話の次のように述べていた。

「鰯は漢字のとおり弱い魚で、漁船が港に到着する頃にはほとんどが死んでしまいます。しかし、ある漁師の漁船が運ぶ鰯だけはいつも活きがよかったです。他の漁師は不思議に思っていたそうですが、理由は教えてもらえませんでした。

その漁師が亡くなった後に、船の生け簀を見ると、一匹の鰯が入っていたそうです。鰯はもともと淡水に棲む魚であり、海水の生け簀では苦しくて暴れてしまいます。どうやら、鰯は暴れる鰯が傍にいるため緊張し、死ぬことがなかったようです。

組織の中で『鰯』になる人がいないと、その組織は『活性』を失うことがあります。『鰯』になれる人は

38年の歲月

厚岸町立厚岸中学校 西澤和訓

もあつたものです。

そして昨年、校長として3度目の着任をし、今年3月で38年間の教員生活にピリオドを打ちます。どの自治体でも人口減少や少子化が言われますが、現在の厚岸町の人口は9,000人を下回り、町内の学校数も小中学校各3校、高等学校1校の計7校となっています。本校の生徒数も7年前に2桁になり、現在は75人です。町内を散歩してみると、街並みもすっかり変わり、空き地や空き家が目につくなど寂しい限りです。学校でもGIGAスクール構想で、デスクトップPCから一人一台ずつタブレットが支給され、授業の中にICTが活用されるなど、あらゆるところで時代の流れを感じるものです。

アナログ人間の私は、既にこの流れに取り残された感を感じますが、言い訳がてら職員には「不易と流行を意識してほしい」と言っています。時代は変われど、人として生きていく上で失ってはいけないものが、教育の世界にはたくさんあります。教員として残されたわずかな時間で、厚岸町の子供たちのために、そして厚岸町のために、自分ができるところを精一杯やっていこうと考える今日この頃です。

鰯の生け簀に鯰を入れる

別海町立別海中央中学校 野口泰秀

組織の中で一人だけかもしれませんが、『先見性』をもち、『潤滑油』のような役割を果たすため、組織において大きな影響力をもたらします。」と。

日本ハムファイターズは、稲葉氏をゼネラルマネージャーに、また新庄氏を監督に就任させた。さりとて、この二人が「鰯」では意味がない。「鯰」となる人材を育成できるかどうかでチーム再建の是非が見えてくるような気がする。

本校では、文化祭が成功裏のうちに終了した後、校内が緩むことのないように教育相談、第3回公開授業研究について提案された。行事による停滞を活性化させる動きが教職員の発案で行われたのを目の当たりにし、前述した研修会の話思い出した。

今年、本校の新採用教員はなぜか「生き生き」と仕事をしている。来年度は二人とも学級担任を受けもりたいと頼もしいことを言う。これは、教職として、また人生の先輩として見習わせたいスクールリーダーが「鰯」の役目を担っているからだと思われる。新採用教員が初任段階を終え、将来「鰯」から「鯰」に化けることができるならば、根室の教育に一つ財産が増えることになる。

後期情報

北海道中学校長会 事務局長 越田 公美

○今年度の活動を振り返って

北海道中学校長会は「叡智を結集し 新時代へ向かう道中」を合い言葉として、全道20地区566人の会員相互の連携のもと本道の中学校教育を推進し、道民の負託に応えるべく活動を行ってきました。

残念ながら今年度も、新型コロナウイルス感染症対策を講じながらの学校経営が最大の課題となりました。道教委、道小をはじめとする関係機関と昨年度と同様に緊密に連携しながら、地区校長会との情報共有を大切に、新しい生活様式に基づく教育課程の再編と推進に取り組まなければなりません。

- 以下にお示しする内容はその一部です。
- ・文教施策・予算要望に関する要望書の送付
- ・道教委との情報交換会・各課懇談会の実施
- ・道小とともに道教委とのWEB会議の開催
- ・地区別教育経営研究会への参加（通常4地区、オンライン9地区、書面6地区）
- ・理事研修会等のオンライン開催
- ・第63回北海道中学校長会研究大会宗谷・稚内大会のオンライン開催
- ・全日中研北海道（札幌）大会実行委員会の開催

・道教委による各種施策への意見・要望の集約（教員免許更新制に係る効果と課題、定年延長に関する制度設計に当たっての課題等）

○第63回北海道中学校長会研究大会宗谷・稚内大会

昨年9月24日に開催した第63回北海道中学校長会研究大会宗谷・稚内大会は、オンライン開催となりましたが、校長の資質向上、学校経営に資する内容としました。宗谷校長会の皆様には、きめ細かく心温まる運営をしていただいたことに感謝を申し上げます。今大会の成果が、来年度に札幌市で開催される第73回全日中研北海道（札幌）大会に引き継がれることを願っております。

○来年度の事業について

新型コロナウイルス感染拡大防止への取組や学校における働き方改革への取組、GIGAスクール構想の実現、命を大切に教育等、これからも乗り越えるべき課題は山積みですが、本道の中学校教育の振興に努めて参りたいと思っております。今後とも御理解と御協力をよろしくお願い申し上げます。

来年度の事業計画は、2月に開催される第5回理事研修会を経て、4月の総会で決定となります。

受賞おめでとうございます

☆令和3年度文部科学大臣表彰（教育者表彰）を受賞されました。

三浦 利章 校長（北海道中学校長会会長 千歳市立千歳中学校）

☆北海道中学校長会6人の校長先生が令和3年度北海道教育功労者表彰を受賞されました。

太田 智子 校長（美唄市立美唄中学校）

☆檜山 聡 校長（七飯町立大沼岳陽学校）

宮澤 知 校長（小樽市立菁園中学校）

☆長尾 真 校長（留萌市立留萌中学校）

神成 浩 校長（新ひだか町立静内中学校）

☆伊藤 晃一 校長（釧路市立共栄中学校）

道中事務局日誌

2021.10.1~12.28

月	日	曜	業務内容	時刻	場所	月	日	曜	業務内容	時刻	場所
10	1	金	松山地区・地区別教育経営研究会・書面(村上,吉本)		向陽中学校, 稲積中学校	11	2	火	第1回北方領土学習資料編集委員会(晶山)	13:30	札幌グランドホテル
5	火		日本教育公務員弘済会論文審査・書面審査(越田, 田丸)		東月寒中学校, 手稲西中学校				公立高等学校入選改善の検討に係る懇談会(越田, 笹川)	10:00	道庁別館
			空知地区・地区別教育経営研究会Web(河村)	13:30	江陵中学校				第2回がみ教育総合支援事業連絡協議会(立花)・書面(依頼文書発出日)		
			石狩地区・地区別教育経営研究会Web(三浦利, 晶山)	15:00	千歳中学校, 江別第三中学校	5	金		運営委員交流会(運営委員, 会長, 事務局長, 会計理事, 専任職員)	10:30	道中事務所
6	水		全日中副会長研修会Web(三浦利)	10:00	千歳中学校				第3回全日中研北海道(札幌)大会実行委員会	13:00	ホテルライオン札幌
8	金		第6回事務局研修会(五役, 筆頭副会長, 幹事, 専任職員)	15:00	ホテルワグネル札幌				(五役, 副会長, 研修部, 専任職員)		
			全日中副会長研修会Web(三浦利)	10:00	千歳中学校				第4回理事研修会(会長, 副会長, 運営委員, 地区理事, 幹事, 専任職員)	13:30	ホテルワグネル札幌
			十勝地区・地区別教育経営研究会・書面(鏡)						道中研全体研修会・引継ぎ会(五役, 宗谷・稚内大会実行委員会)	15:30	ホテルワグネル札幌
9	土		日本教育会全国教育大会Web(三浦利, 笹川)	10:00	千歳中学校, 北栄中学校				小樽大会準備委員会, 研修部, 専任職員)		
10	日		第44回全国育樹祭「式典行事」(木村)	10:00	北海きたえーる				HBC中学生作文コンクール審査会(田丸)	13:00	北海道放送
14	木		オホーツク地区・地区別教育経営研究会Web(野崎, 加藤)	13:00	緑陽中学校, 花川北中学校	8	月		北海道産業教育審議会第1回ワーキングチーム会議(笹川)	13:30	道庁別館五棟
			第28期北海道産業教育審議会学校視察(笹川)	10:00	札幌工業高校	9	火		令和3年度第1回北海道高等学校校務学生選考会(加藤)	13:30	グランドホテル
18	月		北海道教育会議運営委員会Web(三浦利)	14:00	千歳中学校				公立学校教員採用に関する協議会(越田)	10:00	第2水産ビル
			第1回道教委・道小・道中によりICT活用部会Web	10:00	各学校				学校教育局高校教育課との打合せ(越田)	12:30	道庁別館
			(藤田, 檜山, 盛永, 水野, 野崎, 河村)			14	日		第68回北海道学校保健・安全研究大会十勝(帯広)大会・録画配信(木村)		中央中学校
20	水		全日中第2回常任理事会(三浦利)	11:30	千歳中学校	16	火		令和3年度北海道いじめ問題対策連絡協議会(河村)	14:00	かでの2-7
			全日中第2回理事会Web(三浦利, 越田, 木村佳, 檜山)	14:00	各学校	18	水		札幌地区札幌市中学校長会地区別教育経営研究会(越田, 笹川)	14:30	ホテルワグネル札幌
			第72回全日中研静岡大会分科会運営委員会Web	15:00	各学校	19	木		全日中臨時常任委員会Web(三浦利)	13:30	千歳中学校
			(村上玄, 小崎, 垣内, 木野村)			22	月		1ブロック研修会(書面)(三浦利, 村上)		各学校
			第73回全日中研静岡大会 各会議web視察(笹川, 野崎, 三浦英)	13:30	各学校	24	水		日本教育公務員弘済会北海道支部第2回幹事会(越田)	18:00	ホテルワグネル札幌
21	木		第72回全日中研静岡大会開会式・文科省説明・全体協議会・分科会Web	9:00	各学校, 事務所	25	木		北海道公立学校教職員互助会第3回理事会Web(野崎)	10:30	緑陽中学校
			(五役, 副会長, 小川, 小澤, 大場, 林, 晶山博, 木村雅, 長江, 三浦英, 河村, 晶山学, 坂本, 鏡, 村上玄, 小崎, 垣内, 木野村, 大会参加者)			26	金		第8回小中合同研修会(五役)	10:00	道小事務所
22	金		第72回全日中研静岡大会アトラクション・全大会・記念講演・閉会式Web	9:00	各学校, 事務所	29	月		令和4年度全国中学校体育大会北海道・東北ブロック	14:00	千歳中学校
			(五役, 関係役員, 副会長, 小川, 小澤, 大場, 林, 晶山博, 木村雅, 長江, 三浦英, 河村, 晶山学, 坂本, 鏡, 大会参加者)			12	3	金	第2回北海道実行委員会Web(三浦利)	14:30	ホテルワグネル札幌, 浦河第一中学校
26	火		全日中研北海道(札幌)大会運営委員会(越田, 笹川, 三浦英)	10:00	中の島中	4	土		第7回事務局研修会(五役, 筆頭副会長, 幹事, 専任職員)	15:00	ホテルワグネル札幌
27	水		第7回小中合同研修会(五役)	9:00	道小事務所	5	日		北海道学校保健会理事会(越田, 木村)	13:00	北海道医師会館
28	木		五役研修会(五役, 専任職員)	10:30	道中事務所	5	日		北海道科学技術振興作品発表表彰式(加藤)	13:00	札幌青年科学館
30	土		令和3年度北海道青少年科学技術振興作品審査会(加藤)	9:00	澄川小学校	14	火		全日中研北海道(札幌)大会運営委員会(越田, 笹川, 三浦英)	10:00	中の島中
11	1	月	北海道教育の日制定記念行事(木村佳, 笹川)	15:00	ホテルワグネル札幌	15	水		全日中副会長会Web(三浦利)	10:00	千歳中学校

北海道中学校長会

発行者 会長 三浦 利章

編集者 道中情報部

事務局 札幌市中央区北1条西3丁目数島プラザビル4F TEL011-251-1344 FAX011-251-1302 http://www.dochu-kochokai.jp